

「学校における業務改善」

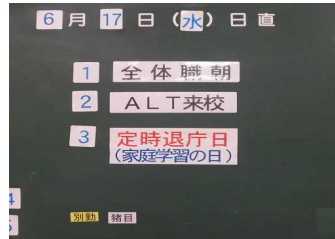
「与論町立与論中学校」の実践紹介

効果が期待される取組

- 校長通信による業務改善における意識改革
- 毎週水曜日の定時退庁日（「家庭学習の日」）の完全実施
- 退庁時刻の見える化による意識向上（「かえるボード」の活用）
- データの共有化（校務分掌フォルダの有効活用）

実施前の課題

- 退庁時刻についての意識の向上を図る必要があった。
- 資料等の管理が曖昧だったため、全職員が共有できるデータ管理が必要であった。
- 部活動における活動日や休日が部活動によって異なっているため、学校全体として統一する必要があった。



「定時退庁日」の設定



「かえるボード」の活用

実施後の成果

- 定時退庁日の完全実施や「かえるボード」の活用によって、見通しをもって校務にあたるようになった。
- 全体で共有しているデータを年度、分掌ごとに整理したことにより、時間を効率化することができた。
- 週休日の部活動と特殊業務手当を関連付けることで徹底できるようになった。

業務改善を目指した取組の詳細

- 1 校長通信による業務改善における意識改革**
定期的に様々な情報発信を行う中で、「業務改善」の必要性の共通理解や、「質の高い教育」を目指すための業務の簡素化・効率化、業務改善の意識化を図っている。
- 2 毎週水曜日の定時退庁日（家庭学習の日）の完全実施**
これまで、各部活動によって活動日や休日が異なっていたため、令和元年度から毎週水曜日を「家庭学習の日」と定め、部活動の休養日とし、職員は定時退庁日と設定した。
- 3 退庁時刻の見える化による意識向上（「かえるボード」の活用）**
一日の見通しをもって校務を遂行するために、令和2年度から「かえるボード」を作成し、出勤簿の横に退庁時刻を見える化することで職員の意識向上を図っている。
- 4 データの共有化（校務分掌フォルダの有効活用）**
全職員のデータを共有するために、年度・校務分掌・教科ごとにフォルダを作成し、これまで使用していた資料や教材を有効活用できるように整理した。

今後の課題、計画

- 正規の勤務時間を超える勤務を月45時間以内としていくために、校務内容のスリム化や会議等の削減、校務支援システムの導入等を行う必要がある。
- 業務の効率化を図るとともに、行事の精選や校時表の工夫等を行い、細部に関わる業務改善を推進していく必要がある。